

平成31年度全国学力・学習状況調査

結果の分析



我孫子市立湖北台東小学校

<国語の調査結果に見られる特徴と現状>

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均を大幅に上回っている。漢字についてはしっかりと定着していることがわかるが、誤答を見ると「関心を感じ」と回答するなど、熟語の意味が理解できていないことがわかる。「書くこと」に関しては全国平均を下回った。報告文の問題であったが、普段、聞き手を意識して文章を作成する機会が少ないことがわかった。どのようにしたら聞き手に伝わりやすいのかを考えることで、工夫が生まれる。他教科の中でも多様な考えに触れる機会を設けたり、総合などの他教科と組み合わせて授業をすすめ、書く機会を増やしたりする必要がある。また、選択式の問題では、問題文だけを読み、回答する傾向がある。一回戻って資料を読み直すなど、複数の資料を基に問題を解くことが苦手なこともわかった。

<算数の調査結果に見られる特徴と現状>

学習指導要領の領域別で見ると、図形は下回っているが他の領域は良好な結果となった。しかし、領域ではなく評価の観点で見ると「知識・理解」や「考え方」に課題があることがわかる。一つのグラフからわかることについてはしっかりと読み取ることができているが、「二つのグラフから何がわかるか」ということについては、自分で答えを見いだすことができていない。このように何かを基に自分の考えを持つということが苦手なことが「考え方」を問う問題からわかった。計算の工夫を問う問題からは、計算が楽になるなどの算数のよさに気づいていない児童が多く、実際の生活と繋がっていないことがわかる。

<学校質問紙調査の結果にみられる特徴と現状>

家庭や学校の関係が良好で落ち着いた学校生活を送っていることがわかる。今後は教員の力を伸ばしていくために学校の組織を見直していくことが必要である。研究推進委員会を中心に研究に取り組んでいるが、指導案検討の形態や研推の人選など、学校の実態を考慮する必要がある。研究に触れる機会を増やすことで、研究が他人事ではなくなり、チームとして取り組んでいけるのではないかと。学校の取り組みを効果的に職員に落とし込むことを考えていかなければならない。また授業では学んだことを活かして、何かに取り組んでいくことが必要である。単発で授業が終わっているので、教師が意図的に行事・他教科などに関連付けて発展的な学習の場を設け、定着を図っていくことが必要である。

<児童質問紙調査の結果に見られる特徴と現状>

本校の児童は、前向きに学校の授業や地域の活動に参加していることがわかった。自己肯定感も高く、本校の教員が丁寧に子どもと接し、授業に取り組んでいることがわかる。全国の平均よりも劣っているところは、授業以外のところが多い。読書や新聞を読む習慣というのは家庭環境によるところが大きいですが、自発的に取り組んでいくためには、そのものに対する興味・関心を高めていくことが大切だ。

授業では、「学んだことを他教科で使うようにしている」と子どもたちと答えているが、テストの結果を見ると力が身につけているとはいえない。授業で学んだことが他教科や生活で活かされていない実態がある。

<これからの具体策>

①学校に適した研修体制の構築

- 研究推進委員会の人選を学年に任せるのではなく、意図的に行う必要がある。
- 管理職と研究主任が中心となり、研究の計画を立てていく。研究主任が作成した毎月の研修計画に管理職が深く関わり、学校としての方向性がぶれないようにする。
- 若年層研修は、リーダー（主任）が毎月の職員会議で提案を行い、見通しを持って進められるようにする。

②発展的な学習の場の提供

- 教員が見通しを持って、児童が学習したことを活かした活動が行えるようにする。
- 指導目標の明確化。行事等にただ参加するのではなく、目的を持たせるようにする。新聞にまとめがちだが、「誰かのために」という他者を意識してゴールを考えると画一的ではなくなってくる。「自分はこう考える」という読み手や聞き手に発信する機会を作っていく。本校は算数の研究だが、国語などの研修を行うことも必要だ。
- 図書室の利用を推奨していく。図書室で授業ができるようにし、図書に触れる機会を増やし、児童に対し図書には有用性があることに気づかせ、学習を行うことができるようにする。

③算数タイムの方向性

- 領域が偏ることがないように年間計画を工夫する。